

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

10月号 JCCCNC主催「災害と心のケア」



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

思い出の潟分校と盛岡YMCAの出会い

千葉侑子（秋田県仙北市思い出の潟分校）

YMCAが潟分校でキャンプを始めたのは、知り合いの方からの1本の電話がきっかけでした。最初は、YMCAの活動を知ることから始まり、キャンプを行う場所として分校を紹介したので後日何うとのことでした。

数日後の祝日に6～7人でいらした際、見学者と思っていたら「YMCAと申します。分校を紹介されて、本日も下見に伺いました。」と言われ、元気で明るい方々なんだと思いました。それから校内見学をしてもらい、今でも忘れられない、あの「いい所ですね～」という一言から3年。今では潟分校でのキャンプも10回近くとなりました。四季折々の風景の中、様々なテーマでの利用をして頂いています。「毎回、分校には何かがある」と言えるくらいの摩訶不思議な事件があり、それを聞いてなぜか笑う子、泣く子、それに戦いを挑もうとする子、別

のことを考えていそうな子、子供と一緒にしゃいでのリーダーさん…。『十人十色』とはこのことを言うのかもしれないと思いました。みんな、年齢や学校も違うのに、いつも一緒に過ごしていたかのような子ども達の雰囲気やリーダーさん達の団結力に「素晴らしい」の一言と、そんなキャンプに参加できる子ども達に羨ましさを覚えます。

こんなにも子どもやキャンプが好きで、子ども達のことを考えて計画することができる『YMCA』ってすごいなと思います。

私が小さい頃にはなく、もしあったとしてもあの頃は興味すらなかったかもしれないキャンプ。今、こんな素晴らしい人たちと知り合い、一緒に同じ時を過ごせて本当に幸せです。ありがとうございます。

JCCCNC主催「災害と心のケア」のための研修 in サンフランシスコ

9月19日～25日、アメリカのサンフランシスコで行われたJCCCNC(Japanese Cultural and Community Center of Northern California)主催「災害と心のケア」のための研修に、盛岡YMCAからは松尾聡さんが参加してくださいました。

この研修でケアの対象者となるのは被災者ではなく、被災者に関わってきた人たちです。ボランティア、自衛隊、消防、医師、看護師なども多くの悩みやトラウマを抱えているのだそうです。通常、被災者の方たちばかりに目がいてしまうところ、アメリカでは周囲の方たちにまでケアが行き届いています。こういったケアを知ってもらい、広めていこうという研修でした。今回松尾さんには、研修に参加しての感想を聞かせていただきます。

“Great Experiences”

松尾 聡（白百合学園高等学校教諭）

最初にこのような素晴らしいプログラムを計画していただいたMr. Paul OsakiをはじめとしたJCCCNCの方々とりまとめをしていただいた、日本キリスト教海外医療協力会の大江さん、日本YMCA同盟の光永さんに心より感謝申し上げます。

未曾有の震災から6カ月。何度か現地に足を運び、その悲惨な状況に言葉を失いました。さらに福島での原発が追い打ちをかけました。震災と一言でいうものの、原発、放射能、ボランティア、環境、エコ等、私自身が目や耳にしているものはどれが正しく、何が大事であるのか優先順位も分からなくなりました。被災した人たちの生活が一番とか義援金が集まったと聞きますが現地から不安の声は消えません。国政の混乱は目を覆うばかりで、違和感は増すばかりでした。

そんなときに今回の研修に参加して、参加する前より多面的・俯瞰的に震災をとらえることができるようになったと感じています。様々な職種の人とのセッションは刺激的であり、私の知らないことばかりで大変興味深いものでした。現地で実際に支援をしている方、これから支援を進めていく方、神戸の震災の復興への体験から今できることを模索している方、今も必死に医療現場でケアにつとめている方、どの方も悩みながらもぶれない視線の先にはぶれることなく被災して苦しんでいる人たちがいます。実際に多くの方がいろいろな形でかかわっていることを知りました。教育現場でもトラウマやPTSDなど30年は子供たちを見守ることは常識になりつつあります。その対象は当然被災した子供たちです。奔走した現場の教員や関わった人々のケアは必ずしもいつも話題にのぼるわけではありません。私はそうした人たちの心のケアが必要であるということに目が向いていませんでした。長期的に震災を考えた時にかかわった人の心のケアが不可欠なことがよくわかりました。

様々な施設を訪問し、NGOやNPOがそれぞれ独自に活動しているのを目の当たりにしました。その目的や内容はどれも弱者に目を向けたものでとても印象に残りました。

JCCCNC設立25周年でいただいた写真集を見ながら、参加されていた人たちの思い出していました。移住してきた人たちがどんな思いで暮らし、遠い祖国を思っていたのでしょうか。祝典の時に、苦しんでいる被災地の人たちのためにいてもたってもいられず震災の翌日から行動を起こしたことを聞いて胸を打たれました。そして、期せずして私たちに向けてのスタンディングオベーションに涙しました。どれだけあたたかく、勇気づけられたことか。いつまでも日本を思う先達に深い畏敬の念をいただきました。

この研修が終わりではなく始まりであることを心にとめ、できることから1歩ずつ前に進んでいこうと思います。

国境を越えて人の温かさに触れ、国内でも真摯な態度で困難と向かい合う人たちとのきずなを体感できた時間でした。最後に繰り返しになりますが本当にありがとうございました。



—主な研修内容—

9月19日（1日目）

- ・アートセラピー：絵を書く、物を作る、ねんど等

9月20日（2日目）

- ・若者のための職業訓練施設の見学

9月21日（3日目）

- ・消防署の見学（消防士に対するトラウマケアのについて）
- ・アニマルセラピー（動物たちを保護する施設の見学）
- ・NPO関係者の方の講義「孤独死や単独死について」

9月22日（4日目）

- ・児童虐待相談の「命の電話」について
- ・自殺予防について
- ・アルコール依存・薬物依存のケアプログラム

9月23日（5日目）

- ・高齢者のケアに関する講義
- ・神戸の大学教授の方の講義
「トレーニングの評価について」

9月24日（6日目）

- ・参加者同士の意見交換会
- ・JCCCNC25周年
記念パーティー

9月25日（7日目）

- ・礼拝



★ 維持会員 ★

盛岡YMCAは、1983年から活動を始め世界を見つめながら岩手の地に地域に根ざした活動を多くの方々に支えられて続けてきました。

維持会員とは、盛岡YMCAの使命に賛同し、維持会費を払って会員となった方たちです。



感謝

2011年度 10月26日現在
順不同・敬称略

維持会員

花田 瞳、今松 桂子、熊谷 太、南原 良哉、鶴丹谷 三千代、池田 二郎、石崎 眞珠、千葉 代子、吉崎 陽、濱塚 秋二、濱塚 れい子、今野 聖子、今野 健男、名古屋 恒彦、及川 忠人、朴 正浩、松尾 聡子、大関 靖二、佐々木 雅子、金野 東輝子、久保 田 瑞都、北田 アユ子、長澤 博貴、宮崎 幸雄、押切 梓、佐々木 良英、熊谷 力實、田村 治之、澤野 俊理、工藤 直子

寄付

花田 瞳、今松 桂子、鶴丹谷 三千代、池田 二郎、石崎 眞珠、千葉 代子、濱塚 秋二、濱塚 れい子、今野 聖子、今野 健男、佐々木 良英、熊谷 力實、澤野 俊理

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 10月報告書

9月17日、18日の2日間で「みやこ秋まつり」にたこ焼きとお好み焼きの出店、そして山車を引くお手伝いをさせていただきました。このお祭は実施するかどうか議論されてきましたが、宮古の町に再び活気を取り戻そうと開催を決定して行われました。お祭りには多くの方が来て下さり、賑やかな時間を過ごしました。会場の中を歩いていると、YMCAのゼッケンや名札を見て声をかけて下さる方が多くいらっしゃいました。毎日横断歩道で立っている前を車で通っていたり、買い物でお世話になっていたりと、作業風景をご覧になられたりと日々私たちの事を見て下さっている方から「いつも御苦労さま」、「いつもありがとう」と声をかけて下さりました。少しずつですがYMCAが宮古の地で知られている事を感じることができました。また山車を引っ張るお手伝いでは、地域のおばあちゃんに踊りを教えていただきながら、山車を引っ張りました。たこ焼きやお好み焼きを通して、また山車を引くなかで様々な地域の方々と関わりがありました。

これから宮古は冬に向けてスピードを上げて寒くなっていきます。震災のことを思い出す方も少なくないでしょう。そのような方に寄り添いながら、必要なサポートを行っていきたいと考えています。



→これから引く
山車の前で。
(9月17日 魚菜市場)



↑みやこ秋まつりたこ焼きの屋台
(9月17日 魚菜市場)



↑みんなでこの山車を引っ張りました。
(9月17日 魚菜市場前の道路)



←以前宮古小学校でたこ焼きをやったときに来てくれた中学生がまた来てくれました。
(9月17日 魚菜市場)



↑お客さんに手相を見てもらっています
(9月17日 魚菜市場)

宮古での活動実績

☆受益者数 11483人
☆ボランティア数 5643人
(9月末日のべ人数)

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」開設し、長期的な支援を宮古をベースに行っています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

●救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

- ① 郵便振替 (同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)
口座記号番号 02290-9-54655
※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。
- ② 銀行振込み (下記口座にお振込み下さい)
北日本銀行本店 普通預金
口座番号: 7029115
名 義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口
理 事 長 石渡隆司

感謝 2011年度 10月26日現在
順不同・敬称略
●東日本大震災
被災地支援募金・献品●

伊藤眞一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤裕馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川真輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斎藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、菅恵、カトウアキコ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利巧、榎林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、サトウショウ、遠藤品子、ナガイヒロアキ、川坂保宏、宇土澤光里、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、栄美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川真輔、サイトウリョウタ、山本真大、松尾聡子、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖光学院、千葉明德短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たちばな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ、東日本区、高橋千鶴子、小川武、山澤美和、八幡浜教会、豊中ワイズメンズクラブ、タナカヒロアキ、東京東ワイズメンズクラブ、敬和学園大学、名古屋ワイズメンズクラブ、北村工務店、東京八王子ワイズメンズクラブ

IBCまつりで宮古市魚菜市場の出店を お手伝いしてきました！



10月1日～2日、小岩井農場でIBCまつりが行われました。そこで、宮古市魚菜市場からも出店するというので、盛岡YMCAから綺麗所(?)が手伝いに行ってきました！焼きサンマ、エビ、ホタテに、サンマのすり身汁、海鮮焼きそばなどを販売し、特に海鮮焼きそばは2日間とも行列ができるほどの大盛況ぶりでした。

お客さんの中には、現在の宮古の復興状況を気にして声をかけてくださる方や、「頑張ってるね！」「負けないでね！」と、励ましの言葉をくださる方も多くいました。震災から半年以上たった今、被災地の復興のためには、直接被災地に赴き活動するだけではなく、震災についての記憶を風化させずに絶えず何かしらの形で一人一人が支援を続けていくことが大切なのだと今回の活動で改めて感じることができました。



高橋ちひろ
(盛岡YMCAリーダー
盛岡大学栄養科学部1年)

今回手伝ってくれたのは、
全員盛岡大学栄養科学部1年の女子大生たち♪
高橋ちひろ(ゴボウリーダー)
澤口栞(おたまリーダー)
会場明華(ほやリーダー)
村田夏貴(ケリーリーダー)



情報コーナー

11月の予定

- ★11月6日(日)
ミニサッカー大会
(於：仁王小学校グランド)
- ★11月12日(土)
ワイズメンズ例会 18時30分～
(於：きのえね本店)
- ★11月13日(日)
サンデースクール
「世界にひとつだけの
オリジナルハンコを
作ってみよう」
(於：盛岡YMCA前潟センター)
- ★11月19日(土) 18時～19時30分
宮古ボランティアセンター報告会
(於：アイーナ6F団体活動室3)
- ★11月27日(日)
アドベンチャー11月活動
「ホクホク焼き芋を食べよう」
(於：中津川河川敷)

12月の予定

- ★12月26日～29日
エンジョイスキーキャンプ
(於：八幡平リゾートスキー場)
- ★12月27日～29日
ジュニアスキーキャンプ
(於：八幡平リゾートスキー場)

こぼれ種⑫

「＜共に歩む＞…ということ」

日本基督教団内丸教会牧師(元日本YMCA同盟 主事)
中原真澄



YMCAはその最初から、誰かが誰かの上に立ち、教え込み、誘導し…といった「指導」的、あるいは(悪い意味での)「教育」的な関係ではなく、互いが等しい立場で語り合い、支え合う、即ち、ピア・カウンセリング的关系を基礎に運動を造り上げてきた…そう繰り返してきました。そのことは大人と子どもの間でも、見守り、支える役割は多くなるにしても、基本的には同じで、そうした＜共に歩む＞関係こそがYMCAの基本とも記してきました。でも「言うは易く行は難し」というのも確かです。

昨年の夏頃でした、中津川の河川敷を犬と一緒に散歩していると、私たちの前を若い父親と4歳ほどの女の子が散歩しています。女の子は、道端の小さな花や虫、目に触れる全てが面白く、立ち止まってはしゃがんで見入ります。でも父親はドンドン先に歩いて行きます。女の子は「待ってえ～」と追いかけて、また立ち止まって…の繰り返し。それを見ながら「なんてもったいない」と思いました。

父親にとって、僅かな夏休み的一天、幼い子と＜共に歩む＞機会は(母親に「外に連れ出して」と頼まれたのかも知れませんが)一生のうち、そう何回もあるものではありません。その貴重な時間、子が何を見、何を嗅ぎ、何を感じているか、共にユックリ歩き、一緒に小さな世界の素晴らしさを感じたとしたら、父子にとって一生、忘れられない思い出になったはずです。でもツイツイ自分のペースと予定で歩き、子どもには「早く、早く」と急ぎ立ててしまうのが私たち大人の都合＝「配慮」なのかも知れません。

自分の時間を相手と＜共に歩む＞ために用いる…簡単なようで難しい…でも、気持ちに寄り沿って自然とそれができた時、私たちの心には宝物がたくさん蓄えられ、それが一生の力になるでしょう。

「あなたの神、主は、あなたの手の業をすべて祝福し、この広大な荒れ野の旅路を守り、この40年の間、あなたの神、主はあなたと共にいられたので、あなたは一つ不足しなかった」(申命記2章7節)

～表紙の写真より～



JCCCNCの記事をこのニュースに載せるにあたり、白百合学園へ足を運び、松尾さんにインタビューをしてきました！

英語ばかりの資料…。拝見しても全く理解できないため、必死でお話を聞きました。しかし、この研修で得たものはただか1時間程度で説明できるものではなかったようです。松尾さん自身、多くの方に自分が見て聞いてきたものを伝えたいということで、研修の内容をこのYMCAニュースに連載していただけることになりました。乞うご期待!!!

松尾さんにはお忙しいところ引き受けてくださり、誠に感謝いたします。

(家村)